

かな やま
金山遺跡 1

大野城市教育委員会



写真1 金山遺跡2次調査全景



写真2 古墳時代の竪穴住居

金山遺跡は、大野城市大城4丁目周辺に広がる遺跡です。遺跡周辺では、旧石器時代の石器や縄文時代の土器・石器がみつかっていましたが、住居や穴（土坑）などの遺構は見つかりませんでした。また、古墳時代には、遺跡周辺で多くの古墳群が見つかり、同じ丘陵上にも釜蓋古墳群や成屋形古墳・笹原古墳が築かれていました。

さらに江戸時代の文献に、筑後藩主田中吉政が江戸に上るために福岡藩主黒田長政が作らせた道との説な

どがある通称「田中道」とされる道筋が遺跡の中を南北に通りぬけています。

調査は平成11年度と平成22年度の2回実施されています。1回目の調査では、土坑・溝が見つかり、その中から古墳時代前期の土器が出土しました。2回目の調査では、縄文時代晩期の土坑や



写真3 縄文時代の土坑



写真4 縄文土器（深鉢）



写真5 縄文土器（浅鉢）

古墳時代前期の竪穴住居が見つかりました（写真1）。縄文時代の土坑は平面楕円形をしており、（写真3）、たくさんの黒曜石の石器や縄文土器が入っていました。縄文土器は表面をナデもしくはミガキで仕上げられ、形は深鉢と浅鉢があります（写真4・5）。古墳時代の竪穴住居は平面四角形の住居の一部が見つかりました（写真2）。これらのことから、金山遺跡には、縄文時代晩期と古墳時代前期ごろの集落跡が広がっていた可能性が高いことが分かりました。